

(広報資料)

京都文学賞
Kyoto Literature Award



令和4年7月14日
京都市文化市民局
京都文学賞実行委員会
〔担当：文化芸術都市推進室文化芸術企画課〕
電話：075-222-3119

新たなアンバサダー（応援大使）の就任について

京都市では、文学の更なる振興や「文化都市・京都」の発信等に寄与するため、令和元年度から「京都文学賞」を実施しており、令和4年度は、8月1日（月）から、第4回作品及び読者選考委員の募集を開始する予定です。

本文学賞では、京都ゆかりの6名の作家の方々に「アンバサダー（応援大使）」に御就任いただき、SNS等を通じた情報発信など、本文学賞のPRに御協力いただいています。

この度、新たに、京都出身の今村翔吾氏（第166回直木三十五賞受賞）に「アンバサダー（応援大使）」に御就任いただくことになりましたので、お知らせします。

記

1 アンバサダー（応援大使）

今村翔吾さんのプロフィール及びコメント



撮影：佐賀章広

1984年京都府生まれ。滋賀県在住。ダンスインストラクター、作曲家、守山市埋蔵文化財調査員を経て作家デビュー。2018年、デビュー作『火喰鳥 羽州ぼろ鳶組』（祥伝社文庫）で第7回歴史時代作家クラブ・文庫書き下ろし新人賞受賞。同年、「童神」で第10回角川春樹小説賞を受賞し、初めて直木三十五賞候補となる（同作品は『童の神』と改題し、角川春樹事務所から刊行）。20年『八本目の槍』（新潮社）で第41回吉川英治文学新人賞、第8回野村胡堂文学賞、『じんかん』（講談社）で第11回山田風太郎賞、21年『羽州ぼろ鳶組シリーズ』（祥伝社）で第6回吉川英治文庫賞、22年『塞王の楯』（集英社）で第166回直木三十五賞を受賞。22年3月『幸村を討て』（中央公論新社）、同年7月『蹴れ、彦五郎』（祥伝社）刊行。21年から大阪府箕面市にある書店「きのしたブックセンター」のオーナーも務める。22年京都府みやこの文化賞、大津市文化特別賞受賞。

歴史作家をしているとつくづく思います。京都とは玉虫色の魅力に溢れていると。その何処を切り取ったとしても、一編の小説になり得るでしょう。そうして生まれた文学が京都をまた彩る。京都文学賞にはそのような力があるのではないのでしょうか。

2 参考

- 京都文学賞ホームページ
<https://kyotobungakusyo.com/>
- 第4回京都文学賞 作品及び読者選考委員の募集
<https://kyotobungakusyo.com/about>